

① ビジョン検討部会

(ア) 部会の目的

将来のまちづくりに向けて、未来ビジョンの将来都市像の1つである将来目標（数値指標）及び土地利用方針を定めることを目的とする。

(イ) 開催概要

【第1回】

日 時	令和7年11月10日（月）10時～12時
場 所	知立市役所 第8会議室
参加者	知立市商工会、株式会社藤田屋、株式会社 FUJI、名古屋鉄道株式会社、知立銀座商店街協同組合、中町町内会、碧海信用金庫、中部電力株式会社、知立市経済課、大日本ダイヤコンサルタント株式会社 計 15 名
議 題	<ul style="list-style-type: none">・今年度の議論とアウトプットについて・モニタリング指標のこれまでの推移について・今後のデータ取得及び公開について
議事要旨	<ul style="list-style-type: none">・昨年度設定した目標をいかに実現するかが重要であり、そのための方法論を積み上げる必要がある。年間500万人が訪れる駅前にするべきである。・今年度は未来ビジョンで掲げられた目標や年間500万人の交流人口をどのように達成するかを詳細に分析し、構造化とブレイクダウンを行うことで、どのように達成するかを取り組みを提案する必要がある。・エリアの規模や立地、事業の状況を踏まえて、エリアの将来像に参考となる、ベンチマークとなる地域を引き続き検討し、地域の関係者で共有することが重要である。チェーン店だけでなく、魅力的な地域の個店が入り混じる地域を実現することが重要であり、その成功例があれば共有する。・駅前エリア全体ではなく、通りや区域ごとにどのような商業や待ちにしていけるかの解像度を上げていくことが重要。それが整理出来れば、おのずとやらなければいけない取り組みが見えてくるのではないかと。・外からの開発事業者の参入は建設費の高騰もあり難易度が高くなっている。新規開発では、家賃負担力のある大手テナント優先になりがちであるが、個人店や地域の店舗が入っていくための環境づくりが重要である。・区画整理ばかりに目が向くが、すでに商店街などが形成されている、区画整理以外のエリアが重要な役割を果たすことになる。行政だけでなく、商工会や地元の事業者それぞれがやれることを明らかにする。

【第2回】

日 時	令和8年1月9日（金）15時～17時
場 所	知立市中央公民館 中会議室
参加者	知立市商工会、知立市商工会青年部、株式会社藤田屋、株式会社 FUJI、中部電力株式会社、知立まちづくり株式会社、知立市経済課、大日本ダイヤモンド株式会社 計 11 名
議 題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 交流人口の拡大に向けたまちづくりの目標設定の考え方について ・ まちづくりの目標達成に向けた具体的な取り組みについて
議事要旨	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目標設定の数字自体が明らかになったため、各目標を達成するためのターゲットの整理が可能となる。そうなった場合に、それぞれのターゲットに対する出店状況等を聞き取ることができれば、戦略的に商業配置を行うことができるのではないかと。 ・ ここまで検討してきた資料のうち、どこまでが公開可能な範囲なのか。外向けに開示してよいデータや内容について整理を始めてほしい。 ・ 全体を見渡すと、一番交流人口増加に寄与するのは来訪人口だと思われる。そうすると、そこをどれだけ伸ばせるのかが取り組みの肝になるのではないかと。 ・ 交流人口増加に向けた取り組みについて、単発イベントも大事であるが、現在注目しているのは季節イベント。ゆめナビさんのイルミネーションのように、季節イベントが充実していけば、必然的に来訪人口が大きくなるとともに、単発イベントと比べて継続性も高い。春と秋の取り組みが何かあれば。 ・ 商工会としては、創業塾を進めており、商業床が増えたときに店舗がしっかり充実していくことを狙っている。現在は高架下を狙って20名超が参加している。